

内部質保証のための自己点検結果 (概要)

令和5年12月

秋田大学

I. はじめに

本学は、高等教育機関として教育研究活動等を行っており、その有効性の検証や改善、向上計画等の取り組み状況については、内部質保証体制を構築して確認しており、絶えずその質を高めるための取り組みを行っています。

一方、本学は、外部評価として、令和2年度に（独）大学改革支援・学位授与機構の大学機関別認証評価を受審しましたが、改善を要する点として指摘された2つの事項は、令和5年度までに改善済みとなっています。

本概要は、本学が自律的な組織として教育研究等の質向上を行うために令和5年度に実施した自己点検の結果を取りまとめたものとなっています。

II. 実施内容

大学機関別認証評価の「自己評価実施要項（令和6年度版）」に基づく自己評価書を活用し、令和5年5月1日の状況で、下記領域1～6に関する自己点検を行いました。

領域1 教育研究上の基本組織に関する基準	基準1-1～1-3
領域2 内部質保証に関する基準	基準2-1～2-5
領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準	基準3-1～3-6
領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準	基準4-1～4-2
領域5 学生受入に関する基準	基準5-1～5-3
領域6 教育課程と学修成果に関する基準	基準6-1～6-8

III. 基準ごとの自己評価結果

領域1 教育研究上の基本組織に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
基準1-1 教育研究上の基本組織が、大学等の目的に照らして適切に構成されていること	基準を満たす	【優れた取組】 ・大学資源の集約・強化と効率化による全学的な学部再編等を通じて、大学の強みを明確にし、国際資源学の世界的教育研究拠点を形成している。
基準1-2 教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること	基準を満たす	【優れた取組】 ・資源系企業とクロスポイントメント制度による協定を締結し、資源業界における豊富な実務経験を持つ人材を採用している。
基準1-3 教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること	基準を満たす	該当なし

領域2 内部質保証に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
基準2-1 【重点評価項目】内部質保証に係る体制が明確に規定されていること	基準を満たす	該当なし
基準2-2 【重点評価項目】内部質保証のための手順が明確に規定されていること	基準を満たす	該当なし
基準2-3 【重点評価項目】内部質保証が有効に機能していること	基準を満たす	該当なし
基準2-4 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること	基準を満たす	該当なし
基準2-5 組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること	基準を満たす	該当なし

領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
基準3-1 財務運営が大学等の目的に照らして適切であること	基準を満たす	【優れた取組】 ・学長のリーダーシップの下、学内資源の再配分により、教育研究活動の活性化や新たに強み・特色となる分野の醸成、学長を支援する体制の強化などの業務運営の改善を図るため、「大学戦略推進経費」を設け、令和5年度は604,310千円の予算を確保し重点配分している。また、教育研究力向上を促進するため、学部戦略推進経費及び学部・大学院教育研究経費の50%相当額414,118千円の予算についてIR分析等を活用した再配分を実施している。
基準3-2 管理運営のための体制が明確に規定され、機能していること	基準を満たす	該当なし
基準3-3 管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること	基準を満たす	該当なし
基準3-4 教員と事務職員等との役割分担が適切であり、これらの者間の連携体制が確保され、能力を向上させる取組が実施されていること	基準を満たす	該当なし
基準3-5 財務及び管理運営に関する内部統制及び監査の体制が機能していること	基準を満たす	該当なし
基準3-6 大学の教育研究活動等に関する情報の公表が適切であること	基準を満たす	該当なし

領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること	基準を満たす	該当なし
基準4-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること	基準を満たす	該当なし

Ⅲ. 基準ごとの自己評価結果

領域5 学生の受入に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
基準5-1 学生受入方針が明確に定められていること	基準を満たす	該当なし
基準5-2 学生の受入が適切に実施されていること	基準を満たす	該当なし
基準5-3 実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること	基準を満たさない	<p>【改善を要する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際資源学研究科博士後期課程資源学専攻において、過去5年間の入学定員に対する平均比率が144%（1.44倍）と大幅に超える状況となっている。 理工学研究科博士前期課程に関して、 <ol style="list-style-type: none"> 生命科学専攻において、過去5年間の入学定員に対する平均比率が160%（1.60倍）と大幅に超える状況となっている。 共同サステナブル専攻において、過去2年間の入学定員に対する平均比率が144%（1.44倍）と大幅に超える状況となっている。 （参考）大学評価基準では、実入学者数について、過去5年間の入学定員に対する平均比率が±30%以内であることが求められている。 <p>【改善を要する事項への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際資源学研究科博士後期課程資源学専攻において、現状の定員設定に関して教授会にて意見交換を実施しており、外国人留学生や奨学金の動向によるものを含め引き続き検討する。 理工学研究科博士前期課程において、定員設定について志願者の推移も見つつ、情報系新学部の設置や理工学部の改組により実施される大学院改組を含め、入学定員の適正化を図る予定である。

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	基準を満たす	該当なし
基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	基準を満たす	<p>【優れた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学的取組として秋田大学士力及び秋田大学汎用ルーブリックを策定し、卒業時点で学生が身に付けるべき知識・技能・態度等の能力を具体化するとともに、その評価観点と達成度を明確化することにより、学習成果を可視化し社会的に信頼される学士課程教育の実践に取り組んでいる。
基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	基準を満たす	<p>【優れた取組】</p> <p>[医学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業時に備えておくべき能力をコンピテンス及びコンピテンシーとして定め、6年間で確実に達成できるように、すべての科目についてコンピテンシーから見た役割を明確化し、学年ごとのマイルストーンを明示した。 <p>[国際資源学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム（平成24年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラム採択）では、資源学分野におけるグローバルリーダー養成のための体系的なカリキュラムを構築した。同修生は、国内の大学・研究機関等の最前線で活躍するとともに、留学生においては自国の研究機関や民間企業等において、本プログラムで得た知識や能力をいかに発揮し、広く産学官にわたり世界規模で活躍するリーダー候補者として着実に成果をあげている。なお、同プログラムの支援終了後は、本研究科において「資源ニューフロンティア特別教育コース」として継続している。 同研究科は、「南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成」（令和2年度文部科学省大学の世界展開力事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～）、及び「SDGs 達成に貢献する文理融合型高度資源系人材育成」（令和2年度文部科学省科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロウシップ創設事業）に採択された。1件目のスマートマイニング特別プログラムでは、“これまでの”資源開発学をベースとして、情報工学（AI、IoT、ビッグデータ等）を積極的に取り入れた“これからの”資源開発学（スマートマイニング）を実践できるグローバル人材育成を目指している。また、2件目の大学フェロウシップ創設事業では、修士課程から博士後期課程に進学する優秀な人材を確保するため、将来の科学技術・イノベーション創出を担う博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの支援を行っている。
基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	基準を満たす	<p>【優れた取組】</p> <p>[国際資源学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が数名ごとのグループに分かれ、海外の実習先に約3～4週間滞在し、鉱山実習や地質実習、資源関係企業でのインターンシップ、関連大学での演習、フィールドスタディなどを行う「海外資源フィールドワーク」では、学生の参加率が平成28年度（学部開設1期生）から7年連続で100%を達成している（コロナ禍はオンラインで実施）。また、海外資源フィールドワーク委員会が実施するアンケートでは、同実習に参加したことが自分の進級や進路等に大いに役立っているという回答が多く、本学部のカリキュラムの中核として効果を挙げている。 入学時のコースから他のコースへ異動することを希望する場合（転コース）は、GPA2.5以上の学生であることを第一段階の出願条件として申請を受け付け、受け入れ先のコースによる審査に合格した場合は転コースを認めており、学生の希望に即した修学を叶える体制を構築している。 英語特別教育プログラム「I-EAP」の開講及び2年次以降の専門科目は全て英語による授業を実施することにより、グローバル資源人材となるための英語の基礎力や資源学における実践的な英語能力の向上を行っている。さらに、平成30年度からは、「I-EAP Certificate」を開設し、外部試験のTOEIC-IPテストを1年生から2年生までそれぞれ受験させ、各コース及び各年次の合格点を定め、合格点を満たすことを進級の要件としている。 <p>[教養基礎]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年度（令和元年度）の全学的なクォーター制の導入にあたっては、科目充実と時間割の見直しを行っており、主題別科目として新設した区分「地域志向・キャリア形成」における新規開講科目8科目（「地域キャリアデザイン」、「秋田の産業」等）を含む計10科目については、科目担当教員と講師選定の検討を重ね、本学実務家教員の他、産業界、地方公共団体等の協力の下、多様な業種の専門家を外部講師として招聘し、より実践的な教育が展開できるような講義とした。

Ⅲ. 基準ごとの自己評価結果

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
<p>基準6-5 学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること</p>	<p>基準を満たさない</p>	<p>【優れた取組】 [全学] ・The ALL Roomsのイングリッシュマラソンとの相乗効果及び学生スタッフの育成に力を入れて取り組んだ結果、イングリッシュマラソン参加学生のTOEIC平均点が例年大きく向上している。また、The ALL Rooms学生スタッフからTOEIC高得点者（900点以上）を複数輩出している。</p> <p>[国際資源学部] ・博士前期課程におけるダブルディグリープログラム協定の締結や、これまで行ってきた共同研究や海外資源フィールドワークの受入れ実績等が海外拠点の設置に結びついており、今後も更なる教育研究活動の発展及び国際連携活動の推進が期待される。 ・交換留学制度及び文部科学省「トビタテ！留学JAPAN」の制度を活用し、海外の大学に日本人学生を送り出している。平成28年度から毎年採択者が出ており令和4年度までに9人が留学し、留学した学生の就職状況は資源系のみならず、材料系企業や商社等、他分野の一流企業に就職するなど、留学の成果が現れている。</p> <p>[医学部] ・保健学科看護学専攻において、トランスジェンダーの学生の受入に対応するため、平成31年度（令和元年度）からユニフォームを男女兼用とした。また、本人の要望を受け、更衣室を新たに整備しており、様々な学生を受け入れるため柔軟な対応を行っている。</p> <p>[理工学部] ・理工学部改組時に創造生産工学コースにおいて2年後期に「プロジェクト実践研究Ⅰ」、3年前期に「プロジェクト実践研究Ⅱ」を設定し、秋田県内企業の協力のもと、プロジェクトの課題設定やスケジュール、組織作り等、マネジメントに関する実践活動を行っており、令和元年度からは他コースにおいても「プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」を展開しPBL教育を推進している。 ・学生が自主的に考えアイデアを出し、そのアイデアを実現し、さらに学内外にアピールする活動として「学生自主プロジェクト」を実施しており、学生の創意工夫による実践能力と協調性、自主性など幅広い能力を培う取組となっている。</p> <p>[国際資源学研究科] ・本学初となるダブルディグリープログラム協定をインドネシアのパジャジャラン大学と締結し、グローバル社会で活躍できる高度な知識と応用力をもつ人材育成を実践している。また、これまで行われてきた共同研究や海外資源フィールドワークの受入れ実績等が海外拠点の設置に結びついており、今後の更なる教育研究活動の発展及び国際連携活動の推進が期待される。 ・各種プログラム等を活用して数多くの留学生を受け入れおり、本研究科の令和5年5月1日現在の正規留学生数は72人（学生数の46%）となっている。本研究科の授業も、学部からの継続としてすべて英語で実施しており、グローバルな環境下で教育研究活動が展開されている。</p> <p>【改善を要する事項】 [全学] ・令和3年5月に「休講等授業連絡方法に関する取扱いについて」を全学的に定め、さらに、同年度は各講義の連絡方法の一覧表を作成し、a-netにより学生に周知していた。この取り組みにより、令和2年度に受審した大学機関別認証評価で改善を要するとされた本件は改善済みである。 ・令和4年度も、引き続き、各講義の連絡方法の一覧表を作成し学生に周知していたが、令和5年度においては、閲覧する学生の利便性向上の観点等から、より効果的な方法へ見直しを行っている最中であり、本自己点検実施時において学生への周知を行っていないため、改善を要するとした。</p> <p>【改善を要する事項への対応】 [全学] ・令和6年度より、シラバスの項目に「休講等授業連絡方法」を記載する欄を設け、学生にとっても利便性を向上することで対応することとし、本件は改善済みである。</p>
<p>基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること</p>	<p>基準を満たさない</p>	<p>【優れた取組】 [全学] ・秋田大学成績評価ガイドラインを策定し、成績評価方法については、授業形態に応じ原則として2つ以上の測定手法（筆記試験、実技試験、レポート、リフレクションカード、学修ポートフォリオなど）を、用いて多面的・総合的に評価することや、評価は原則としてルーブリック（学習到達目標を縦軸に置き、それに対する学生の達成度を数段階にわけて横軸に置き表にしたもの）に基づいて行うことなどを定め、成績評価の厳格性・公平性を保証するための取組を行っている。ルーブリックについてはFD・SDシンポジウムで理解を深める機会を設けたほか、教員向けの授業マニュアルや次年度シラバスの作成要項等とともに成績評価ガイドラインを教員に送付するなどして導入促進に努めている。</p> <p>【改善を要する事項】 [医学系研究科医科学専攻・医学専攻] ・成績評価の分布表を作成していたが、令和2年度大学機関別認証評価受審以降、所掌する学務委員会に諮られていない。 [理工学部、理工学研究科] ・令和2年度大学機関別認証評価受審以降、成績評価の分布表が作成されていない。また、所掌する学務委員会に諮られていない。 [先進ヘルスケア工学院] ・令和3年度の本工学院設置以降、成績評価の分布表が作成されていない。また、所掌する運営委員会等に諮られていない。</p> <p>【改善を要する事項への対応】 [医学系研究科医科学専攻・医学専攻、理工学部、理工学研究科、先進ヘルスケア工学院] ・令和5年度末までに前年度の成績評価の分布表を作成し、各部署が所掌する学務等委員会において点検（審議）しており、本件は改善済みである。</p>

Ⅲ. 基準ごとの自己評価結果

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

基準	自己評価結果	優れた取組、改善を要する事項及びその対応
基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	基準を満たす	該当なし
基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	基準を満たす	【優れた取組】 [国際資源学研究科] ・博士前期課程及び博士後期課程修了生の就職状況は、ほとんどが資源及びそれに関連する分野の専門職、研究職へ就職しており、令和4年度は就職希望者に対する就職率は100%である。